



発表の流れ

1. 「言語景観」とは？
2. 言語景観とことばの教育：先行研究
3. 「日本の街・言語景観プロジェクト」の概要
4. 作品の紹介 (例：アンジェラ＆ソユン)
5. プロジェクトを終えて：学生の学び＆教師の学び
6. むすび：言語景観プロジェクトのCCBIへの可能性

言語景観とは？

- 「公共空間で目にする書き言葉」 (庄司他2009)
- 「景色のなかのことば」 (中井・ロング2011)

Journal: Linguistic Landscape (2015～)

言語景観研究の主な目的

- 公の空間にどのような言語があり、どのような言語がないのか、その体系的なパターンを記述し見つけ出すこと
- 様々な形式の言語景観を作り出す際の人々の動機、プレッシャー、イデオロギー、反応、意思決定を理解すること

(佐藤 慎司 訳)

言語景観とことばの教育

• 報告されている数が少ない
• 学習者を巻き込んだものが少ない

対象言語	言語景観の種類	学習者参加	文献情報
第二言語習得・言語/リテラシー教育一般		無	Shohamy & Waksman (2009) Cenez & Gorter (2008)
第二言語・外国語としての英語教育 (EFL)	カリブ諸国	無	Hewitt-Bradshaw (2014)
	メキシコ	無	Sayer (2009)
	韓国	有 (大学生)	Chesnut, et al. (2013)
	台湾	無	Chern, et al. (2014)
フランス語	バンクーバー & モントリオール	有 (小学生)	Dagenais, et al. (2012)
	ポルトガル	有 (小学生)	Clemente, et al. (2012)
中国語	フィラデルフィア中華街	無	Leung & Wu (2012)
東アジア言語 (中国語・韓国語・日本語)	カリフォルニア	無	Malinowski (2015)
	カリフォルニア	有 (大学生)	Malinowski (2016)
韓国語	ウェブ上 韓国の街	有 (大学生)	Malinowski (2010)

言語景観とことばの教育

- 1) 街を「ことばの探偵」「都会の地理学者」として歩く
(“Literacy Walk” / “Language Awareness Outing” / “Language Detective Project”)
- 2) 街に存在するいろいろな「環境のテキスト」
(標識、看板、ポスター) の写真を振り集める
- 3) 集めた写真を(実践の目的にあった形で)分類し、分析を行う

→ 「ことばの学習者」から「ことばの研究者」へ 学習者の社会的主体性を尊重・奨励する教育

言語景観とことばの教育: 効果

「言語学習」の観点から

- 言語形式に関する学び
 - 文字、語彙、表現、文法
- 語用論的能力
 - サインの目的一言語形式—社会的文脈・場の関係

New Literacy Studies/Multiliteracies/Critical Literacyの観点から

- クリティカルな言語への気づき (“critical language awareness”)
- マルチモード・多言語を利用したコミュニケーション
- ローカルな意味を盛り込んだ創造的なことば使い
- 比喩的なことば使い (figurative language)
- 文字や言語の選択とその効果、 など

「日本の街・言語景観プロジェクト」

- 2018年春学期 米国東海岸にある女子大学
- 日本語2年生後半コース
 - 教科書「とびら」使用
 - 教員2名
 - 50分授業、週5回、14週間
 - 2セクション、計16名受講
 - Google Mapsを利用



参加者プロフィール

名前(仮名)	文化的背景	言語	日本経験	探索した街
サンディー	ベトナム系アメリカ人	英語・ベトナム語	無	大阪・道頓堀
ジャニス	ヒスパニック系アメリカ人	英語・スペイン語	無	
ジョイ	韓国系アメリカ人	英語・韓国語	無	新宿・歌舞伎町
マンディー	ヨーロッパ系アメリカ人	英語	無	
ヘザー	ヒスパニック系アメリカ人	英語・スペイン語	無	銀座
ケイ	中国人	中国語・英語	有	
リア	ヒスパニック系アメリカ人	英語・スペイン語	無	
ジン	台湾系アメリカ人	英語・中国語	有	京都
ケイト	ヨーロッパ系アメリカ人	英語	無	
アンジェラ	ヨーロッパ系アメリカ人	英語	無	渋谷
ソユン	韓国人	韓国語・英語	有	
キャンシー	中国人	中国語・英語	有	秋葉原
ナオミ	ポルトガル系アメリカ人	英語・ポルトガル語	無	
ジェニー	アフリカ系アメリカ人	英語	無	京都
シンシア	ヨーロッパ系アメリカ人	英語	有	
セレナ	ヨーロッパ系アメリカ人	英語	有	

プロジェクトの概要

目的 (オリジナルは英語)

- 1) 公共の場に存在するいろいろなサインを集め分析し、それらが見る人にどんな意味を伝えているのかを理解する
- 2) サインについて、自分の分析・解釈、サインから推測できるその地域について、日本語(口頭・筆記、両方)で説明できるようになる
- 3) ワードプレスに、サインのイメージとそれについてのクリティカルな分析・解釈をまとめ、日本の言語景観を経験したことがない人にとって役に立つようなページをデザインする

プロジェクトの概要

手順

1. プロジェクトの説明
2. Google Mapsワークショップ
3. チームで興味をもったサインを10個選ぶ。最低3つ、意味のよくわからないサインを探す。
 - イメージ(スクリーンショット)は、はっきり見えるか
 - 複数言語が使われているか
 - 複数の文字(ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字)が使われているか
 - ことば以外のモードが使われているか(例: イラスト、絵、シンボル、地図)
 - シンボルのみが使われているか
4. グループで4段階に渡る分析を行う。(後述)

5. 分析1: クラスで共有・発表する。
6. 分析2&3: クラスで共有・発表する。
7. グループで選んだサインの中から3つを選び、そのサインの分析についてエッセイを書く。(Google Doc) (最低2回推敲)
8. WordPressワークショップ
9. サインのイメージとその分析のエッセイをワードプレスに掲示する。(最低2回推敲)
10. プロジェクトについて学期末に発表をする。

4段階の分析



- そのサインはどこにありますか。(例: 駅、レストランの前、公園、交差点、など)
- 何語が使われていますか。
- どんな文字(ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字)で、書かれていますか。どうしてだと思いますか。
- ことばの他に、どんなモード(絵・イラスト、シンボル、地図、色、レイアウト、フォントなど)が使われていますか。
- サインに何と書いてありますか。何のサインですか。
- 日本語で書いてあること他の言語で書いてあることは、同じですか、違いますか。どうしてだと思いますか。

4段階の分析



- サインを作ったのは誰ですか。公共のサインですか、プライベートなサインですか (例: 日本政府? 地域の自治体? 地域の住民? 店のオーナー?)。どうしてそう思いますか。
- なぜその場所にサインを立てたと思いますか。
- サインの目的は何ですか。(例: 案内する、警告する、注意する、お願いする、宣伝する、など)
- 誰が対象者ですか、どうしてそう思いますか。
- なぜその文字(ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字)が使われていると思いますか
- なぜその言語が使われていると思いますか。
- 色々なことばとモードは、メッセージをわかりやすく伝えるために役に立っていますか。それとも、わかりにくくしていますか。

4段階の分析



- サインは目的を果たしていると思いますか。
- そのサインは誰にとってもわかりやすいですか。どんな人にとってわかりにくいと思いますか。
- どうして他の言語は使われていないのだと思いますか。
- そのサインを見て、その地域についてどんなことがわかりますか。(例: 誰が住んでいるのか、どんな人がその場所に来るのか、など)
- そのサインから、その地域に住んでいる色々な人々の関係についてどんなことがわかりますか。
- あなたは、そのサインを見てどんなアクションをしましたか。そのサインについてどう思いますか。

4段階の分析




- 標識を作った人に何か提案はありますか。どうしたら、もっとわかりやすくなると思いますか。
- 分析した標識の中から一つ選んで、誰にでもわかりやすい標識に変えてみましょう。デザインを変えてもいいし、新しく同じ目的の自分の標識を作ってもいいです。

学生の作品

例) アンジェラ & ソユン



『フグの標識』




まず、このフグの標識があるレストランは他の日本料理のレストランがある道にあります。アメリカ人のアンジェラはこのような標識を初めて見ました。海岸にはこのような大きいシーフードの形の標識がありません。このフグのサインを見た時、これをレストランじゃないかと、アケエリムとか魚のバットショップだと思っ外国人もいると考えました。でも、一部の外国人は異なる考えがあります。韓国と日本に住んだことがあるソユンはこのような標識を幾つも見たことがあります。ですから、このサインを見て、すぐにレストランだと分かります。シーフードをよく食べる日本人の食生活が分かっていると、この標識をすぐに分かるようになるかも知れないです。

この標識を見て、サインの意味を知っている人とフグのサインを知らない人の反応が違います。アンジェラは何の標識か分からなかったから、フグを食べたくなかったです。アンジェラはフグが食べ物で、食べられることを知りません。でもソユンはこの標識を見て、標識の意味を知ってフグを食べたことがありますから、フグはおいしくて健康に良い食べ物だと思えます。ソユンのようなお客さんはこの標識が面白い標識だと思います。この標識はとて大きくて、見やすいですから、お客さんはこのレストランに行きたいと思うことができます。

解釈の多様性

『I CLEANED UP HERE!』



次のサインはとてもユニークな公共の標識です。渋谷駅の近くにある標識の下にシンボルがあります。日本にある標識ですが、英語だけで書かれているのはどうしてだろうか。私達は、大抵の日本人は道路を綺麗にするけど、外国人はあまり日本の清潔さを知らないで、そのような人達がこのサインの対象だと思いました。毎日渋谷駅からたくさんの色んな人がこの大都市に入るし、この標識を読む人々は英語が分かって、話せるかもしれないと思います。左下のシンボルは一般的で、「ここにゴミを捨てない」という意味を持っています。多分、「I CLEANED UP HERE!」はポケモンゴドーこの標識で同じ意味を持っています。このサインにいる人は掃除をする人で、彼はポケモンを取るようにゴミも取るというメッセージを伝えていると思います。例えば、ポケモンゴドーあなたがゲームをする時、「エリアでポケモンを取る」か「ポケモンを捕まえる」です。標識を作った人は、ポケモンゴドーをして、エリアを掃除することについてジョークを作ったと思います。この標識は「ポケモンゴドー」というゲームを知らない人達にも英語がペラペラじゃない人達にとって、サインの目的やジョークが分かりにくいです。この標識が好きな人はポケモンゴドーよくする人や若者だと思います。

対象者と言語選択の関係

言葉遊び 意味の多層性

『NICE T-EE MEET YOU!』




最後はこの「NICE T-EE MEET YOU!」というプライベートの標識です。この標識は英語で書いてあって、文の中に絵が入っています。英語が分かる人達はこの語呂合わせとティーショップの絵を見てすぐにこの店が何の店か分かります。英語と語呂合わせが分からない人にとってはちょっと分かりにくい標識だと思います。そして、日本人や英語がわからない外国人にとってはこの標識は効果的じゃないです。でも、この英語の挨拶は英語を使う人達に親しみやすい雰囲気を出しています。英語で書いてある理由はもっと多くの人に気づかせるようにするためだと考えました。この店の周りには「リーフ」や「200」のようなお茶の店やカフェのブランドの店があります。そしてこの店も多分他の店を思い出さないうちかと思いました。アンジェラとソユンはこの標識を初めて見て、とても面白いと思いました。標識がガラスの後ろにあるので、ちょっと分かりにくいと思いましたが、赤と青の色の標識を明るく見えるようにしています。

ことば遊び

目的と言語選択の関係

『CAN I CAPTURE YOUR ATTENTION P』



私達はこの標識の中で「CAN I CAPTURE YOUR ATTENTION PLEASE?」と書いてあります。最初の標識は面白いけどちょっと分かりにくいので、もっと多くの人が分かるように変えました。最初の標識は英語が分かって書いてあったので、新しい標識にはならなかった。標識が面白い一部の外国人のことを考えて、漢字は絶対に入れません。でも、日本語が少し書いてあっても、主要な言語は英語だから英語の言葉を前に置きました。

そして、この標識は英語が分かる人達に親しみやすい雰囲気を出しています。英語で書いてある理由はもっと多くの人に気づかせるようにするためだと考えました。この店の周りには「リーフ」や「200」のようなお茶の店やカフェのブランドの店があります。そしてこの店も多分他の店を思い出さないうちかと思いました。アンジェラとソユンはこの標識を初めて見て、とても面白いと思いました。標識がガラスの後ろにあるので、ちょっと分かりにくいと思いましたが、赤と青の色の標識を明るく見えるようにしています。

多様な言語・多様な文字づかい

マルチモダルのコミュニケーション

解釈の多様性

渋谷のいくつかの標識を調べたところ、私たちは、この標識が、外国人に分かりにくい標識も見つけました。そして同じ標識を見ても、考えることが人それぞれ違うことに気がきました。世界には色々な文化があるので、自分が知っている文化や興味のある分野によって考え方も違うと思います。さらに渋谷は毎年たくさんの外国人が訪ねる場所だから、英語や他の国の言語を使った標識が結構多いと考えました。それを見て、日本人の標識を見る外国人がもっと簡単に理解出来るように、そして標識を面白くするように努力するようになりました。例えば、私たちが見つけた二つの英語で書いてある標識は英語が分かる人達と他の国の人達に対してよく配慮すると思いました。

地域と対象者と言語選択の関係

プロジェクトを終えて

- 学生の学び（自己評価アンケートより）
 - 日本語について
 - 外国語の使用について
 - ことば以外のモードについて
 - 自分自身のもつステレオタイプについて

日本語について

- 文字の選択

- 対象者(大人vs.子供)

The use of katakana, hiragana, and kanji often depends on the **age of the intended reader**. (シンシア)

- 目的・効果

The style, fonts, and word choice of a sign were carefully chosen to **present a particular image**; e.g., serious warning signs uses kanji for efficiency; entertainment/commercial signs use katakana to present modern impressions. (キヤシー)

I was able to learn about the different effects of using katakana versus hiragana and kanji, especially the **visual impacts** that the different alphabets had in different contextual landscapes. (ジョイ)

- ことば遊び

I learned some useful Japanese vocabulary and a little bit about **word play**. (マンディー)
The Nice Tee Meet You! sign was very clever and easy to understand for an English speaker once you realized it was a **pun**. (アンジェラ)

外国語の使用について

- 対象者(日本人vs.外国人、何語話者)によって異なる言語の選択

The use of other languages can be very telling about how many **tourists** typically frequent an area. (ケイト)

- 外国語(英語・フランス語)のシンボリックな役割

Signs using other languages may be **providing information for people who do not speak Japanese**, while often times the use of other languages is for **purely "aesthetic" purposes**. (セレナ)
Language can also be used as a **marketing strategy** to make the sign **stands out more or makes it cool**. (ジャニス)

English is used often in Japan, not necessarily as a device for allowing English speaking people to read stuff, but also as a **stylistic choice**. (シンシア)

- 英語の支配的地位

The most dominate languages used were Japanese and English—I think the use of Chinese and Korean was equally a lot less. (アンジェラ)

ことば以外のモードについて

- 言語以上のコミュニケーションで対象者を広げる
- イメージとデザインが解釈に影響

That pictures often greatly influence how people interpret a sign. A **helpful picture can transcend language** and communicate the content of the sign even to those who do not speak the language, but it can also confuse the reader or mislead them. (マンディー)

Use of images and design of signs can greatly affect our interpretation of the signage, especially for people who may not understand Japanese. (マンディー)

I mostly noticed a distinction in the advertisements, which made many references to **pop culture and used foreign languages to draw attention to their product**...It also seems that many signs attempt to **appeal to a large age range, relying on the different writing styles** (hiragana, katakana, and kanji), as well as images, to appeal to both children and adults. (セレナ)

自分自身のもつステレオタイプについて

- 「外国人」=英語話者・西洋人という無意識の前提

We often in our analysis conflated 'foreigner' with 'English speaker' though those aren't necessarily the same thing. (シンシア)

Considering our perspective on what type of image when we say "Japanese people, locals," and "foreigners." Those terms encompass a **much larger demographic and cultural backgrounds** of those who identify with terms like those. (マンディー)

I didn't realize before, but my assumption was that **most tourists would be westerners**, so when I saw the signs that featured Chinese and Korean it was unexpected and I realized that naturally there would be a lot of tourists from nearby countries. (リア)

教師の学び: 学生の「？」に直面して



- 「日本人」が当たり前と思っていることは、外にいる人間にとっては当たり前でない

- 「日本人」の常識(規範・前提)が同じ常識を持たない者を排除する状況を作り出す

- 「日本人」が常識としていることの不合理性や理不尽な点に気づく

結びにかえて: 言語景観プロジェクトのCCBIへの可能性

- 学生を「正しい」理解に導くこと、教師の目論んだ批判的な「読み」を目的としない
- 学生が持ち寄る「わからない」・教師が予期しなかった解釈を出発点とし、標識・広告という社会文化的産物をめぐる多様な解釈について議論し合う
- お互いのもつ異なった「当たり前」の規範を明示化し、その違いをめぐって対話をつづける
- 「教師vs学習者」、「母語話者vs非母語話者」、「知識を持つ者vs持たない者」といった2項対立的な関係に描さぶりをかける
- 違う解釈や理解は当然であり、まずはその違いを理解し、それを納得し受け入れたり、あるいは変更を求めたりしながら、よりよい標識、つまりは、社会を創ることに参加できる個人を育てていく

主要参考文献

- 庄司博史・ペート・バックハウス・フロリアン・クルマス(2009)『日本の言語景観』三元社.
- Cenez, Jazone, and Gorter, Durk. (2008). The linguistic landscape as an additional source of input in second language acquisition. *IRAL*, 46, 267-287.4
- Sayer, Peter. (2009). Using the linguistic landscape as a pedagogical resource. *ELT Journal*, 64(2), 143-154.
- Shohamy, Elana, and Waksman, Shoshi. (2009). Linguistic landscape as an ecological arena: Modalities, meanings, negotiations, education. In E. Shohamy & D. Gorter (Eds.), *Linguistic landscape: Expanding the scenery* (pp.313-330). New York: Routledge.
- Chesnut, Michale, Lee, Vivian, and Schulte, Jenna. (2013). The language lessons around us: Undergraduate English pedagogy and linguistic landscape research. *English Teaching*, 12(2), 102-120.
- Rowland, Luke. (2013). The pedagogical benefits of a linguistic landscape project in Japan. *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism*, 16(4), 494-505.
- Malinowski, David. (2015). Opening spaces of learning in the linguistic landscape. *Linguistic Landscape*, 1(1-2), 95-113.